

2024年度 問題分析ゼミナールⅠ・Ⅱ 担当予定教員一覧

教員名	テーマ	シラバス	卒業論文 卒業制作
阿部力也	①論理的にものごとを考え、論理的にそれを説明する力（法的思考力）を身につけること。②犯罪という現象を法律からだけではなく、多角的な視点からとらえ、犯罪がなぜ発生するのか、そして犯罪を予防するにはどのような方策があるのかについて考えること。	7	—
石川幹人	マイノリティの生きやすい社会を考える	11	—
今村哲也	知的財産に関する法的問題の研究	15	193
岩淵輝	生命の探究 一いのちと生き方の問題を哲学や倫理学を手がかりに考える—	19	—
牛尾奈緒美	業界や企業の研究を通じて、社会的問題を解決する方法を見つけ出す	23	—
江下雅之	メディアを〈データサイエンスする〉	27	193
小田光康	ジャーナリズムに関する倫理・理論の研究	33	193
川島高峰	ミレニアル・Z・α世代の日本の国家論・社会論・日本人論	37	194
清原聖子	現代アメリカ研究—多角的な視点から現代アメリカ政治と社会について考える—	43	194
熊田聖	意見の対立している分野を取り上げ、調査し、自分の考えを明確にし、それを他人に説明できるようになりましょう。	47	—
高馬京子	越境するファッション・スタディーズ：メディアにおいて構築/伝達されるファッションとジェンダー表象をめぐる諸問題を考える	53	194
後藤晶	行動経済学・実験経済学から行動社会科学・実験社会科学へ：人間の行動と社会制度を考える	57	195
小林秀行	災害と社会	65	195
齋藤航	現代社会の法律トラブルとその対策	69	—
坂本祐太	「ことば」に関する研究：身近な不思議を発見・分析・解決する	73	—
施利平	恋愛・結婚・家族の社会学	77	195
島田剛	コーヒー・チョコレートから見る国際経済とSDGsのあり方 ～グローバルの実践としての神保町コーヒー・プロジェクト	81	—
清水晶紀	福島原発事故後の環境回復と地域再生をめぐる課題を分析し、法政策を提言してみよう	85	195
鈴木健	カルチュラル・スタディーズ入門—現代思想との関連でメディア批評の方法論を学ぶ	91	—
鈴木雅博	学校の社会学	95	195
須田努	異文化コミュニケーション史・社会文化史の研究	99	196
関口裕昭	春学期：メルヒェン研究／秋学期：映画と文学の比較研究	103	196
大黒岳彦	情報社会の〈現在(いま)〉を多角的に掘り下げる	107	196
竹崎一真	スポーツ社会学、カルチュラル・スタディーズ	113	—
竹中克久	組織社会学—現代社会を読み解く	115	196
田中洋美	差異、ジェンダー、セクシュアリティ、人種、身体、ポストヒューマン、メディア、テクノロジー	119	196
田村理	映像作品の制作・発表を通じて、大学での学びを実社会につなげる	123	—
塚原康博	現代社会と情報コミュニケーション—問題分析編—	127	—
ドウティモシー	英語の語用論、第二言語習得	131	—
内藤まりこ	言語表現を読み解く技法：理論と実践	135	197
中里裕美	社会ネットワーク〈つながり〉の研究	139	197
根橋玲子	異文化間コミュニケーションと多文化共生	143	197
波照間永子	芸術コミュニケーション研究—社会におけるアートの役割・問題を検討する—	147	197

日置貴之	芸術作品を研究・批評する（基礎）、芸術・文化と社会との関係について考える。	151	198
蛭川立	人類学と意識研究	157	—
堀口悦子	ジェンダー・バイアスを考える	161	198
宮田泰	紛争解決システム論	165	—
山内勇	イノベーションの経済学	169	198
山口生史	組織コミュニケーションと組織行動学の調査・研究	173	—
山崎浩二	ソフトウェア開発とアルゴリズム	177	—
横田貴之	比較政治学から世界を読む	181	198
脇本竜太郎	社会心理学：数量的アプローチ	185	199
和田悟	アジアに目を向け情報社会と情報技術について考える	189	—